

# 1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 うぐいす )

事業所番号	0272700865		
法人名	特定非営利活動法人 アシスト		
事業所名	グループホームせせらぎ荘		
所在地	青森県三戸郡南部町下名久井字青柳4-1		
自己評価作成日	平成23年10月10日	評価結果市町村受理日	平成24年1月25日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

せせらぎ荘は「自立、信頼、笑顔」の理念の通り、利用者・職員共々、明るく、生き生きとして日常生活を送っている。同建物内のもう一つのユニット「もみじ」、小規模多機能型「如来苑」の利用者とも常に交流し、地域の方々が訪問して歌や踊りを披露する際には、事業所が一つとなり、全員で楽しい時を過ごしている。また、1キロ圏内に病院、役場、消防署等があり、各方面からの協力と連携が図られている。グループホームが終の棲家となるように、ターミナルケアを始め、どのような状態の利用者でも対応できるよう努力している。そのためにも職員のレベル向上に力を入れており、外部研修、内部研修を充実させている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)  
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成23年11月11日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の思いを大切に、自宅が気に入れば一緒に見に行く等、できる限り利用者の要望に応えられるように取り組んでいる。利用者が高齢化していく中、「自立、信頼、笑顔」の理念を基に、職員は優しく利用者を受け止め、一人ひとりのペースに合わせてケアをしている。また、医療連携や地域とのつながりを充実させており、安心を提供しながら、住み慣れた地域における利用者の重度化や看取り介護を実践しているホームである。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

※複数ユニットがある場合、外部評価は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自 己 部	項 目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は目につく場所に掲示し、職員は勿論のこと、利用者とも共有できるように努めている。	「自立、信頼、笑顔」というホーム独自の理念には、「利用者が慣れ親しんだ地域の中で、自立した安心感のある信頼関係を維持しながら、楽しく笑顔で過ごせるように」との思いが込められている。理念は全職員で話し合って作成し、日常のケア場面で行き詰った時等、折に触れて振り返り、立ち戻ることのできる指針として職員に浸透している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	サークル活動をしている地域の方々に年に何回か訪問してもらったり、事業所でのイベントにはポスター等を利用して地域住民に参加を呼びかけている。また、町の催事があれば参加し、交流を深めている。	納涼祭での高校生による和太鼓の演奏や民謡・手踊り等の披露の他、地元の祭りや敬老会に参加し、地域住民との交流を深めている。また、介護の相談を受ける等しており、ホームの役割が地域の中で浸透している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民や家族に意見を伺いながら、できる範囲で、認知症についての理解や介護の仕方等、一緒に支える立場として手助けできるように働きかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の運営推進会議の中で、利用者の状況やホームでの活動状況を報告している。また、ホームに寄せられた要望や意見を参考にし、次へ活かせるように努力している。	運営推進会議は役場担当課職員・町社協職員・近隣高校のPTA会長・家族代表の参加の下、2ヶ月毎に開催している。会議では自己・外部評価結果やホームの活動報告、地域の高齢者の現状等についての助言や意見交換を行い、今後の取り組みへとつなげるように努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の役場と緊密な連携を取っている。役場の担当課が運営推進会議にも出席しており、ホームの実情も把握する等、お互いの立場を理解し、良好な協力体制を築いている。	役場担当課職員が運営推進会議に参加している他、広報誌の配布や自己・外部評価結果についても提出・報告している。また、困難事例への対応や利用者の看取り等の実践を通して、日常的に連携を密に取っている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>緊急時にやむを得ない場合は認められているが、身体拘束は厳重に戒めているため、実際には事例はない。玄関の施錠は夜間のみセキュリティの観点から施錠している。</p>	<p>内部・外部研修を通して職員間で共通の理解を図り、身体拘束のないケアを実践している。ホーム前道路の交通状況等により、家族の了解の下、危険防止のために玄関の内扉に施錠する事がある。利用者の外出傾向を察知した時は、気持ちが落ち着くように職員が付き添い、散歩やドライブ等の支援をしている。やむを得ず身体拘束を行う場合には経過や家族の同意等について記録に残す仕組みを整えている。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>身体的には勿論のこと、心理的・性的・ネグレクト・経済的、いずれに関してもスタッフ一同注意し、利用者がのびのびと安心して過ごせるように取り組んでいる。また、職員には様々な機会を活かし、研修を受けるように勧めている。</p>			
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>成年後見制度の活用事例がある他、更に権利擁護制度についての理解を深めるよう話し合いも行き、研修にも参加している。</p>			
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には重要事項説明に則って説明を行い、更に利用者や家族の不安や疑問を引き出すよう働きかけている。また、事業所の方針、利用料以外の費用、事故のリスク等についても十分に説明を行い、納得し、同意を得ている。</p>			
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>年に1回、家族に向けたアンケート調査を行い、意見・要望について対応し、それらを運営に反映させることができている。アンケート結果についてはお便り・広報・運営推進会議等で公表している。</p>	<p>面会の際は何でも話せるような雰囲気を中心掛けている。運営推進会議へ家族代表が参加している他、年1回、ホーム独自の家族アンケートを実施し、要望・意見の把握に努めている。また、ホーム内・外の苦情窓口を明示し、出された要望・意見をホーム運営に活かせるような体制を整えている。</p>		

自 己	外 部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所内のカンファレンス、主任会議等を通じて提案を受け、検討している。また、職員とはいつでも話し合える雰囲気があり、意見を出せるようになっている。また、異動が利用者にも与える影響については、最小限に留めるように配慮している。	毎月のカンファレンスや主任会議にはホーム長が出席し、職員の意見を把握できる体制である他、毎年の個人面談により、職員の意向を聞く機会を設けている。また、利用者との関係の大切にしており、異動は最小限とするよう心掛けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所にて面談を行い、それに基づいて評価し、向上心を持って働ける環境づくりに努めている。健康診断の実施、労働基準法に則った就業規則の順守、資格を活かした職員配置も行っている。			
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外の研修に、計画的に、可能な限り職員が参加できるよう努めており、研修後の伝達研修も行う等の体制もできている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム協会の研修に参加し、情報交換を行い、サービスの質に向けた取組みを行っている。当地域にはグループホームネットワークもあり、そこでは管理者同士の情報交換や、職員のための研修企画・実施等も行われている。			

## II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネージャーや家族からの相談があった時には、必ず家族・利用者と一緒に面談している。面談の中で、利用者の状況や希望・不安等について把握するように努め、利用するまでの介護について助言を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族には今までの苦労を労い、これからは共に進むことを伝え、家族が抱えている問題、不安・希望等を十分に話せるよう配慮し、信頼関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始時、本人・家族のニーズを聞き、今何が必要なのかを職員同士で話し合い、いかに不安なく暮らしていけるか見極め、状況が変わった時も対応できるよう努めている。また、状況に応じて地域包括支援センターや関係機関とも連携できる体制である。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護される立場というよりは、職員の一家族として接し、利用者と暮らしを共にするという気持ちで支えていけるように努めている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	当事業所では、家族との絆を断ち切らないための方策として、支払いを現金でお願いしており、支払いに訪れた際には共に過ごしていただくように努めている。職員はその機会を利用し、介護をする上で困っていること等を相談し、共に支え、本人にとって一番良い状態で暮らしていけるよう話し合いの場を設け、支援に努めている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	敬老会や地域のイベント等に参加する他、以前からの馴染みの美容院や買い物、食事等に出かけている。時には地域の方々に施設に来てもらうこともある。	利用者の生活歴を把握し、馴染みの人や場所を大切にしている。「自宅を見たい。」「庭の草が気になる」等の要望に応じて職員が同行したり、地元の祭りや行事に出掛ける等、これまでの生活と急に変わることがないように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者の個性を把握しており、利用者同士のトラブルを避けるように配慮し、利用者が孤立しないように努めている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が他施設へ移ることはほとんどないが、看取りも行っているため、家族の心のケアに伺う等、関係性を大切にしている。			

自 己	外 部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は普段の会話や仕草・表情等から思いを把握するよう努めているが、困難な場合は本人本位に検討している。	日々の関わりや会話の中での言葉・態度・表情等の自己表現を通じ、利用者の思いやどう過ごしたいのか等の意向の把握に努めている。また、必要に応じて家族や関係者等からも情報収集を行っており、利用者それぞれの自立を目指して支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用申し込みの時点でできるだけ情報収集し、意向を把握するよう努めている。不足なことは生活を共にしていく中で本人との会話や関係者等から情報を得るように努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は利用者の暮らし方や生活リズムを把握し、個人記録によって状況の変化もわかるようになっている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は月1回のカンファレンスでモニタリングを行い、基本的には3ヶ月に1回見直しを行っている。また、計画については、作成または変更した時点で本人もしくは家族に提示し、了承を得ている。	利用者や家族の他、関係機関からも利用者の生活歴・個性・価値観等について情報収集し、担当や全職員で十分に話し合いの上、介護計画を作成している。短期計画を3ヶ月、長期計画を6ヶ月と実施期間を明示しており、毎月のモニタリングを見直しの際にも活かしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の個人記録により、情報を共有している。勤務帯毎の申し送りもあり、情報を介護計画に活かしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載)</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>				
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>利用者にイベント等への参加を促し、職員が安全確保のために同行している。施設としては資金面での支援も行い、地域に参加している。</p>			
30	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>医療機関との連携は良好であり、希望する病院への受診も支援している。また、必要に応じて家族や看護師が同伴している。専門医の受診も問題なくできている。</p>	<p>これまでのかかりつけ医や協力医療機関への受診を支援している。また、認知症専門医・歯科・眼科の受診も支援している。ホームに看護師を配置しており、体調変化時に対応し、受診結果については電話や便り等で家族と共有している。</p>		
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>職員は利用者の状況を把握し、看護師へ報告・相談している。医療処置が必要な場合には適切な対応をしている。</p>			
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>家族のいない利用者が入院した場合でも全面的に支援している。病院とは良好な関係が保たれており、情報交換も十分に行い、早期に退院ができるように病院と連携している。また、家族を含めた話し合いを十分に行っている。</p>			

自 己	外 部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	当事業所は、本人や家族が希望する場合は終の棲家とする方針であることを伝えている。看取りに関しても早期から話し合い、事業所での対応を希望する場合には、本人(意思表示できる場合)・家族・事業所看護師・主治医とで協議することとなっている。また、随時意向や希望の変更に対応していくことを家族に説明している。	看取りに関する指針を明確にしており、可能な限り、住み慣れたホームで看取り介護が受けられるよう、最大限に努力をするという方針の下、看護師である総括責任者を中心として医療連携を充実させている。また、家族・医療機関と早期に話し合いの場を設けて意思統一を図っており、これまでに数名の看取り介護を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時に備えて応急手当や救急救命の研修を受けている。迷いが生じた際は、夜間も含めて看護師に連絡し、看護師が対応することとなっている。			
35	(13)	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設として年2回の避難訓練を実施しており、消防署から講評を頂き、改善の余地があれば整備するように努めている。また、地域との協力隊が結成されており、行政との連携で避難場所も確保している。	年2回消防署立会いの下、夜間も想定した避難誘導訓練を実施している。定期的な設備点検や避難路の点検を行っている他、防寒具・反射式ストーブ・懐中電灯・食料等の用意もしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のプライバシーには特に注意しており、職員には守秘義務や個人情報の取り扱いといった法令順守の教育をしている。また、日常のケア場面においてもプライバシーの保護に関して注意を払っている。	職員は利用者を敬い、一人ひとりに応じた接し方を心掛けており、申し送り時やカンファレンスでプライバシーについて話題にすることで、日々のケアの確認を行っている。また、守秘義務について学習しており、記録物は事務室に保管している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者ができる限り自己決定できるように働きかけている。言葉で表現できない場合でも、反応や表情から汲み取るように心掛けている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	例えば朝食を遅く摂る人への対応、散歩したい人の付添い、夜眠らない人の傍に一緒にいる等、職員は利用者一人ひとりのペースを大切にして支援に努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみ等にこだわりのある利用者には美容院への送迎をしたり、利用者の行きつけの店での買い物支援している。他、日々身に着ける洋服の選択を支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	当事業所の利用者は年々重度化し、調理等はできなくなっているが、調理の材料準備や食事後の食器拭き等、能力に応じて参加している。尚、食事中は職員が付き添い、安全に楽しく食事できるように配慮している。	利用者の好みや希望、体調等に配慮し、栄養士が献立を作成している。また、食器拭きや片付け等ができる人には参加してもらい、職員は利用者が安全に食事できるようにサポートしながら、会話を盛り上げ、楽しい食事時間となるように努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養面については栄養士が管理している。嚥下機能については日々摂取状況を観察しており、水分も10時、15時とお茶の時間を設けて1日の摂取量に気を付けている。また、嗜好品に関しては家族からの差し入れ等も含め、適切に対応している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を全職員が理解している。毎食後、利用者全員の口腔内の洗浄や入れ歯の手入れを行っており、その際には能力に応じた支援を行っている。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを記録や本人の仕草等から読み取り、トイレ誘導を行っている。また、定時での働きかけも行っている。	排泄リズムを記録してパターンを把握しており、利用者個々のタイミングでの介助を行っている。利用者が重度化していく中、オムツ使用が増える傾向にあるが、自立に向けた支援も念頭に、見直しを随時行っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫や水分摂取、腹部マッサージ、その人にあった運動等をしている。頑固な便秘にはその人に合わせた医療的(下剤、浣腸)処置を指示している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴のスケジュールは立てているが、本人の希望に柔軟に対応している。	週2回の入浴を基本としながらも、拒否や体調変化等にも柔軟に対応している。利用者の重度化に伴い、普通浴が困難な場合は隣接施設の寝台浴を利用している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの好みの場所やパターンに合わせている。夜間に起きてしまうようなことがあっても、大声を出さずして他の利用者の迷惑にならない限り、安易に眠剤を利用しないようにしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者全員が服薬管理をできる状態ではないので、職員が管理しており、目的や副作用、用法や用量については薬局から添付される説明書で確認している。処方変更時は理由と変更内容を職員間で共有している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりのこれまでの生活歴や趣味に応じて、役割事や余暇活動を提供し、気分転換を図っている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は玄関前の庭や中庭に出て、花々を見たり、摘んだりして楽しんでいる。散歩をする人には付き添っている。他、ドライブや買い物等の外出支援を頻繁に行っている。	買物や散歩等に日常的に出掛けている他、季節毎の行事やドライブ、地域のお祭りやイベント等へ参加している。職員は利用者の自宅の草取りに付き添う等、可能な限り利用者の希望が叶えられるように努めている。また、利用者の身体状況に合わせて移動方法や時間を配慮し、ホームのリフト付き車輦を利用している。		

自 己	外 部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が可能な利用者に対しては、所持していただいている。また、必要に応じて使えるように支援している。金銭管理が困難な利用者については施設で預かっており、個々に応じた金銭の額や使途に関する相談・報告等を家族と相談して合意を得ている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により電話のやりとりの支援は行っているが、手紙については利用者に意思がないので行っていない。ただし、配達された郵便物は本人の要望に応じて本人の前で開封し、内容を把握できるように支援している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が作成したちぎり絵の暦を掲示し、季節感を感じられるように取り組んでいる。職員の話す声等は、難聴気味の利用者を考慮して対応しており、健康維持のために温度や湿度にも気を配っている。また、リスクマネジメントの観点から、室内の明るさや空間の広さ等についても配慮している。	工場を改装した建物で、ホール・廊下・居室がゆったりと広く、畳敷きの小上がりは芸事を披露する簡易舞台となり、日常的にも利用者の昼寝や憩いの場所となっている。職員の声や立てる物音・TV・音楽の音量は適切であり、室内の明るさや温湿度の調節にも配慮している。また、ホールに银杏の葉を飾りつける等、季節を感じさせるような工夫がされている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の関係には特に注意を払っている。ユニットの中で交流を図ることができない利用者は隣のユニットで過ごすことがあるため、自由に行き来できるようにしている。また、利用者の中には小規模多機能型居宅介護の方と交流している方もいる。			

自 己	外 部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に利用者が以前から愛用していた物を持ってきてもらうよう勧めており、家族の位牌を持ってきている方もいる。	居室には馴染みの物を持ってきてもらえるように働きかけており、家族の位牌を置く等、一人ひとりに合わせた居室となっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者一人ひとりの残存機能を活かすように、手すり等の取り付けをしている。			